

実習生の主体性を育む保育実習指導のあり方に関する一考察

－ ICT 活用を視野に入れて－

佐伯 岳春・中原 大介・矢野川 祥典

福山平成大学
(福祉健康学部こども学科)

E-mail : sae-take@heisei-u.ac.jp

【要旨】

本研究は、先行研究の知見をもとに、「Information and Communication Technology (ICT)」を活用することによって、学生が主体的に学ぶことができる保育実習、保育実習指導の授業内容について提案するものである。

先行研究の知見から、実習指導や実習に ICT を活用することで、実習日誌作成などの学生の負担、実習先の実習担当指導者の負担軽減などが確認された。また、保育実習に関する ICT に関する研究や、実習先へ ICT 活用が推進されている状況などから授業内容を構築することが急務だと考えられた。その為、保育実習事前事後指導、保育実習の各授業担当者が実習に ICT を活用することで得られる効果を踏まえ、シラバスを考察した。結果として、ICT を活用して学生に関する情報を事前に実習先へ共有することができ、実習先の学生理解が進み、実習での指導方針を立てやすくするのではないかとこの考察や、宿泊を伴う実習に対して不安要素が大きい場合でも、他の学生の実習状況などを確認することが可能となり、ICT の活用で学生と教員、施設職員と共通認識を持ちながら連携を図り円滑な実習を行うことができるのではないかと考えられた。また、ICT 活用で、他の学生と記録、指導案を共有でき、多様な考え方に触れ、気づきを深めることができることや、後輩たちへ実習に関するデータを活用しやすくなるなどの利点が考察された。

今後の課題としては、学生、養成校の教員、実習先へ、ICT を段階的に導入していくことが考えられることや、ICT 活用によって記録や指導案に関するデータの蓄積が容易になるため、次世代の実習に活用しやすくなるためのデータの蓄積、整理、開示方法などを検討することが課題だと考えられた。

キーワード：保育実習、保育実習における ICT 活用、保育実習の主体性

1. 問題の所在

1. 保育実習に関する ICT 活用の現状

2020 年度以降、世界的な流行となった新型コロナウイルスのパンデミックは高等教育機関における教育にも大きな影響を及ぼした。

その中で新たな授業実施の方法として ICT を活用した遠隔授業（双方向型・オンデマンド型含む）が急速に発展してきた。遠隔授業や ICT を活用した授業については、高等教育機関のみならず、小学校、中学校、高等学校と様々な教育機関で実施されるようになってきている。

保育実習指導においても、例外ではなくコロナ禍における遠隔授業の実施による効果と課題が検証された。西川ら（2022）は、広島県に所在する全保育士養成校の実習指導者と学生を対象にアンケート調査とヒアリング調査を並行して実施した。2020 年度は実習日程変更を実施した養成校が 73% と高く、オンライン授業での実習指導も実施された。しかし、オンライン授業による実習指導は「実習の目的」などの知識的なものが主であり、指導案の作成、実習日誌の書き方や記録などは指導できていなかった¹⁾、という調査結果を明らかにしている。この調査結果から、オンライン授業では、日誌の書き方や記録などの指導が、多くの実習担当教員が難しいという印象を持っていたことが推察される。

また、ICT を積極的に活用した保育実習指導を志向する研究として、尾崎（2021）は、保育実習プログラムの開発にルーブリックを活用するという、新しい試みと教育実践を対象として研究し、ルーブリック評価法を活用した保育実習プログラムの開発にあたっている。その研究では、実習中のエピソードをルーブリックの評価指標に紐づけるという独自のルーブリック使用法を考案し、保育実習領域へのルーブリック評価法の導入とそれを活用した仕組みの構築へアプローチしている²⁾。こうした ICT を積極的に活用する研究が行われることで、実習時の学生に対する評価が実習先の指導担当教員だけでなく、保育者養成校の担当教員も評価内容を理解することができ、一つの評価観点を複数で評価することも可能になってくると予想される。

では、ICT を活用した保育実習指導を行うにあたって、学生の ICT 利活用の経験と ICT 利活用に関して学生はどのように感じているのだろうか。学生の ICT 利活用の経験と ICT 利活用の印象の関係を調査した伊藤ら（2024）によると、「ICT 利活用で『業務が効率化されると思う』と回答している学生は 92.3% にも達している。他にも

ICT 利活用に関してポジティブな印象としての回答として、『人為的なミスが減りそう』が 51.9%、『保育の質が向上すると思う』が 48.1% と約半数の学生が ICT の利活用をすることが保育にとって良いのではという印象を持っていることが分かる。一方、ネガティブな印象の項目として『メリットや必要性が分からない』や『柔軟な対応ができなくなりそう』の二項目の回答については、0.0% であった。他のネガティブな印象の中では『情報漏洩等セキュリティの心配がある』と『使いこなせるか不安』が共に 30.8% と相対的に高くなっている³⁾」ことが報告されている。この調査結果から、実習生となる保育者養成課程の学生は、使いこなせるかどうか不安を感じながらも、将来保育者になった時は、業務が効率化されると考えていることから、保育実習指導の授業の ICT 活用を期待しているのではないかと考えられる。

また、影浦ら（2024）は、ICT を活用して子ども理解を深めるための実習記録の様式と実習指導の在り方について検討し、その中で、養成校と実習先の共同実践研究を実施している。研究方法として、幼稚園の観察実習において、紙媒体の実習記録に手書きで記入していた形式を完全にオンライン化し、実習生、養成校の実習指導担当教員、および幼稚園の園長や実習指導担当教諭などと共有し、実習前後に、学生の実習記録に対する認識とその変化を明らかにするためにアンケート調査を実施した。その結果、実習前の調査では、記録に対する不安として実習中にとにかくメモをとらなければいけないという行為がプレッシャーにつながっている可能性を指摘している。しかし、実習後のアンケート調査も踏まえ変化量が大きいのが、表記レベルの指導と寝不足の減少があった。つまり、実習記録を手書きから ICT 活用を進めたことにより、漢字の誤記や予測変換等による表現の不備が減少したことで実習記録の作成時間が短縮され、実習中の睡眠時間が確保されたと推測している。また、実習記録に対する学生の自由記述には、記録作成へのプレッシャーや負担を感じずに、子どもとの関わりに集中したり楽しむことができたりした等の ICT 活用に対する肯定的な意見が大半を占めた、という結果も出ており、実習記録に対する不安が ICT 活用によって減少したことを明らかにしている⁴⁾。

影浦ら（2024）の研究では、実習日誌の作成にあたり、ICT の活用によって学生負担が軽減している利点が見られたが、実習日誌の添削で実習先の指導担当職員は、ICT 活用に関して負担はないのだろうか。小澤（2022）は、

学生の学びを支えるための実践的で効果的な実習日誌の指導について実習日誌の様式や保育所や幼稚園の現場職員へのインタビュー調査を行っている。その調査で、デジタル機器を活用した日誌については、「個人情報の流出の観点から慎重な意見が多かった。一方で、効率的な日誌の指導については、デジタル機器の積極的な活用を求める声があった⁵⁾」としており、情報漏洩を危惧するが、ICTの活用によって、実習先の指導担当者にも負担軽減があることが確認された。

以上のように、実習指導や現場実習にICTを積極的に取り入れることで、実習日誌作成などの学生負担、実習先の実習担当指導者の負担軽減など、その利点について述べられている研究が増加している。

保育実習指導、保育実習のICT活用においては、その実習先である保育所においてもICTの活用が必要となる。

保育所のICT活用の状況について、池本ら(2018)は、保育業務のICT化支援システムの構築をするうえで、保育士業務には、子どもたちの登降園管理、保育日誌の記載、指導計画の立案アレルギーの子どもに対する個別の給食指示、保護者へのお便り作成、園児の様子の写真撮影、延長保育料の請求など、多くの事務的業務があるとしている。一般企業においては事務的業務の多くが情報化によって効率化できたことを参考に、保育業務における事務的業務も負担軽減できるのではないかの考えから、国は保育業務のICT化を推奨し、これに応じるように保育業務を支援する様々なシステム製品が存在する。しかし、これまでスムーズにICT化ができていない保育所は、すでに独自の書式等で行っている保育所運営を、汎用の保育業務システムに当てはめることは難しく、せつかくの機能を有効に活用できないともいわれているとし、国がICT化を推奨しても、各保育所に適合したシステム導入⁶⁾の必要性を指摘している。その為、保育所へ国からのICT化支援は続けて実施されており、こども家庭庁(2023)からは、保育所等の運営に関する改善として、ICTを積極的に活用することによる「保育所等における負担軽減」として以下の予算案が提案されている。予算案の内容として、「○保育士等の業務負担軽減に向け、①登降園管理、②保護者との連絡、③保育計画・記録に加え、④実費徴収等のキャッシュレス決済等のためのシステム導入等を支援⁷⁾。」としており、保育所の運営業務に関して、実習先自体がICT導入及び活用を国が

推進している状況である。

ポストコロナ時代になり、保育実習指導へのICT活用を視野に入れることで考慮する点として、オンライン授業から得られた課題では、実習生の書き物への指導が難しいのではないかとことや、実習評価に対して、保育者養成校の教員も評価できる場面が創出できることや、学生が、将来の保育者になった時のICT利活用において、保育業務が効率化すると考えている為、保育実習指導の授業もICT化が必要ではないかと考えられる。その為、保育実習指導に関してICTの活用を視野に入れる知見が増加している状況や国の施策である保育所のICT化推進状況を鑑みると保育実習に関する指導自体もICTの活用を視野に入れ、カリキュラムを構築することが急務だと考えられる。

2. 保育実習指導と保育実習における現状課題

2024年は、コロナ禍が落ち着き以前の保育実習に戻りつつあるが、ポストコロナ時代における保育実習指導での課題は何であろうか。橋浦ら(2017)は、保育者養成課程における資格取得するために必要な科目数の多さを指摘し、学生がこうしたタイトな状況で養成される現実には、サブルーチン化した授業内容や生気のない「受け身的な」授業が多々存在し、そこから生まれてくる「こなす」態度こそが、自ら学び専門性を高め続けることを前提とする保育者養成にとって最大の足枷になると考えている。ただ、異なる科目で、同じ内容が繰り返し教示されることで、学生が学びに「深まり」があったと考えていることや実習に行く前に同じ内容を何度も教えてもらい「有難かった」と考えていたことも報告されている⁸⁾。その為、資格取得に要する科目数の多さが、一概に実習生が主体的に学ぶという意欲を無くしているとは言えないとも考えられる。しかし、資格取得のための科目数が多いことも事実であり、学ぶ過程で、同じ内容について、教示法や観点を変えつつ学生の理解を深めていくことが、保育実習事前事後指導の一つの課題といっていよう。

では、保育者を目指す学生は実習時には、主体性をもって臨んでいるのだろうか。前田(2017)は、保育専攻生の保育実習経験の効果を実習前後に“保育者効力感”(保育場面において子どもの発達に望ましい変化をもたらすことができるであろう保育的行為をとることができる信念)と定義し、その変化を捉えることで、

保育実習経験に影響を与える事前要因の検討を行った。その結果、保育実習経験によって4年制保育専攻生の保育者効力感が上昇すること、保育実習経験とは、「保育専攻生が保育実習特有の不安やストレスを経験しながら子ども理解を深め、保育的行為やコミュニケーション能力を獲得していく過程」であること、志望動機が低い保育専攻生には保育士を行動モデルとした実習目標を意識させることによって保育実習経験の効果が高まる傾向があることを示している⁹⁾。これは、保育者養成課程の学生が保育者への志望動機が高いか低いかによって、実習での目標の重点の絞り方を示唆した内容である。

子どもを理解することに重点を置くか、保育者の保育的行為に倣って実習生自身も行動するという目標に重点を置くかという具体的な実習目標として、保育実習指導の方向性を示唆しており、保育実習の事前指導に関して、具体的な授業展開を構成するうえでの手掛かりとして考えられる。

3. 実習生の主体性を育むための ICT 活用

本研究は、ICTを活用することによって、保育実習、保育実習指導の授業内容やカリキュラムをいかに学生が主体的に学ぶことができるようになるのかを提案するものである。だが、ICTの活用に関して、筆者が保育実習の受け入れが多い園所に電話でリサーチを実施したところ、保育実習を履修する学生、保育実習先、全てがICTを活用するには、段階的な導入が必要だと考えられた。それは、実習先がICTを全く導入していない園所もあれば、運営や記録などをほぼICTを活用しているなど、ICTの導入、活用に関して大きな差があったからである。その為、本研究で提案するのは、保育実習を履修する学生、保育実習先、全てがICTを導入した段階を想定した提案とする。しかし、実際の授業内容やカリキュラムについては、本研究で提案する内容に段階的に移行していくほうが良いだろう。

ICT活用を視野に入れ、実習生の主体性を育むための留意点として、金元(2018)は、保育実習指導の変遷を辿りながら、学生の成長にとっての意味や可能性、課題の分析を行った結果、実習に対する主体性を育むには、入学後から様々な保育を知り、学びたい保育と出会う機会を設け、保育の魅力に触れる経験を重ねながら意欲を紡いでいくことが重要であると示唆している¹⁰⁾。

保育者養成課程の学生に対して、主体性を育むには、履修科目数が多いことが課題として考えられたが、科目数の多さから様々な保育に出会う機会も多いと考えられる。では、保育実習指導で指導すべきであると考えられる授業内容は、様々な保育に出会ったことを振り返り、自分が学びたい保育とは何かを考えることではないだろうか。また、前田(2017)の研究結果のように、保育者になりたいという動機が高い実習生とそうでない実習生が混在していることもあり、それを踏まえたうえで、実習で何を重点に学ぶのかを学生一人一人が認識する必要がある。その為にもICTを活用する利点が出てくるのである。学生同士、養成校の教員、実習先の指導担当者も交えながら、自分が学びたい保育や実習で重点的に学ぶべき点について、ICTを活用して考えるのである。つまり、金元(2018)は、学生の省察の様相から、技術的側面にとらわれない指導の中で、実践の楽しさを感じ取ること、思いを共有している感覚を得られることが、自ら成長する保育者の養成に求められる¹¹⁾とも考察しており、ICTを活用して、学生同士、養成校の教員、実習先の指導担当者と実践の楽しさを感じ取り、実習生の思いを共有することで、自ら成長する保育者を育むことができるのではないだろうか。保育実習指導の授業内容に加え、成長を続ける保育者養成を実践する必要があるだろう。

II 研究目的

本研究では今後急速に進むであろう、保育実習指導や保育実習指導のあり方を振り返り、学生が学ぶことのできる授業内容やカリキュラムを提案することを目的とする。

III. 研究方法

この研究で考察する保育実習は、保育士資格を取得する場合、3年次に必修科目となる保育実習1A(保育所・こども園)保育実習1B(施設)を実施し、4年次に選択科目として、保育実習Ⅱ(保育所・こども園)、保育実習Ⅲ(施設)を履修する。すべての保育実習が、80時間以上、10日以上実習を実施することを規定している。また、保育実習、全てに、15回の保育実習事前事後指導の授業がある。ただ、保育実習に関連した授業を大きくとらえると、専門教育科目すべてが関連してくる為、本研究では、保育実習と授業名に示されている担当科目に限定した。

問題の所在における見解を考察し、ICTを活用した保育実習のカリキュラムを次のように想定した。

- これまで学びを振り返り、実践の楽しさを共有し、自分の学びたい保育と実習での重点的な学びを考える。
 - ・保育実習事前事後指導ⅠA（保育所・こども園）
 - ・保育実習ⅠA（保育所・こども園）
 - ・保育実習事前事後指導ⅠB（施設）
 - ・保育実習ⅠB（施設）

- 学びたい保育の経験を重ね、他者と思いを共有することで、自分が学びたい保育を明確にする。
 - ・保育実習事前事後指導Ⅱ（保育所・こども園）
 - ・保育実習Ⅱ（保育所・こども園）
 - ・保育実習事前事後指導Ⅲ（施設）
 - ・保育実習Ⅲ（施設）

以上のカリキュラムを想定し、各授業担当者が『保育実習事前事後指導』の授業内容の考察を研究方法とする。

IV. 考察

保育実習各担当者が、ICTを活用する場合の保育実習に関連する授業内容、実習について考察した。ICTを使用する場合は（ICT活用）と記した。

『保育実習事前事後指導ⅠA（保育所・こども園）』（佐伯）授業のねらい、概要

- ・入学後に学習した保育に関連した内容理解を深めたうえで、実習の計画、観察、記録、実践について、具体的に理解する。
- ・他者との保育に対する思いの相違についてICTの活用から理解し、実習生一人一人が自分の学びたい保育、実習での重点的な学びについて考察する。

授業内容

- ①保育実習の意義と目的、保育実習に必要な手続き
- ②保育実習支援システムの取り扱いについて（ICT活用）
- ③実習記録の意義、実習日誌（時系列）の記入について（ICT活用）
- ④0～2歳の実習日誌（時系列）の実践（ICT活用）
- ⑤0～2歳の実習日誌（時系列）の実践の振り返り（ICT

活用）

- ⑥3～5歳の実習日誌（時系列）の実践（ICT活用）
- ⑦3～5歳の実習日誌（時系列）の実践の振り返り（ICT活用）
- ⑧保育実習計画の作成（ICT活用）
- ⑨事前オリエンテーションについて（ICT活用）
- ⑩子どもの姿の捉え方とエピソード記録について（ICT活用）
- ⑪0～2歳児の子ども姿を捉える（ICT活用）
- ⑫3～5歳児の子ども姿を捉える（ICT活用）
- ⑬捉えた子ども姿からの指導案の作成（ICT活用）
- ⑭事後指導 保育実習ⅠAの振り返り、お礼状作成（ICT活用）
- ⑮保育実習報告会の準備（ICT活用）

『保育実習事前事後指導ⅠA』授業内容の解説

保育実習ⅠAは、学生として初めての实習となる。その為、PCやスマホでの入力方法習得のため、ICT活用をほぼ毎回実施する。また、日誌の振り返りなどは、ICTを活用することで、他の学生の書いたものも見ることができ、教員からの添削も見ることができると考えられる。他者の日誌や指導案を見ることで、保育の楽しさを多様な観点で捉え、自分自身の目指す保育をイメージしやすくなるのではと考えられる。また、養成校内だけでなく、作成された指導案や実習計画、個人票なども実習先に実習前に送付することで、実習先の学生理解が進み、実習での指導方針を立てやすくなるのではないかと考えられる。

『保育実習ⅠA（保育所・こども園）』（佐伯）

授業のねらい、概要

- ・自分自身が設定した実習計画をもとに、子どもの観察、記録、保育者の子どもとの関わり方などの重点的な学びを深める。
- ・学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育・養護に取り組む「人間力」の涵養に努める。

授業内容

- ①保育実習計画の確認、担当クラスや日程の理解
- ②保育実習担当者の保育観察及び日誌の作成
- ③担当クラスの子どもの姿を捉える

- ④担当クラスの子どもの姿からの指導案の作成
 - ⑤担当クラスの子どもの姿からの指導案の修正
 - ⑥設定保育の指導案の修正、日誌の作成
 - ⑦設定保育の指導案の清書と提出、日誌の作成
 - ⑧設定保育の教材準備
 - ⑨設定保育の実施と振り返り、日誌の作成
 - ⑩保育実習の振り返り
- ※指導案の提出、日誌の提出は（ICT 活用）

『保育実習 I A』授業内容の解説

保育実習 I A は、保育実習事前事後指導 1 A で身につけた ICT 活用によって指導案の提出や実習日誌の提出を行う。これまでの紙媒体での日誌や指導案の使用では、実習先と学生だけで指導が完結していたが、ICT 活用により、実習中も養成校の教員が学生の指導案や実習日誌を確認することができるようになる。その為、実習事前指導の在り方やその教授法も振り返りがしやすくなるのではないかと考えられる。また、学生が、実習計画を立て、それに合わせて実習に取り組んでいるかという確認も行うことができる為、養成校の教員も含めて、学生一人一人の実習で身に付けていきたい内容を重点的に支援することが可能となる。

『保育実習事前事後指導 I B（施設）』(矢野川)

授業のねらい、概要

- ・学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育、養護に取り組む力を養う。
- ・ICT を活用する上で、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
- ・実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について、ICT を活用しながら具体的に理解する。
- ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業内容

- ①社会福祉施設の理解と概要
- ②社会福祉施設の理解と概要（2）（ICT 活用）
- ③施設実習計画作成、事前オリエンテーションについて（書類準備）（ICT 活用）ポイント）～（ICT 活用）
- ④実習の記録と日誌、記録の方法（施設実習の日誌の

ポイント）修正、清書（ICT 活用）

- ⑤施設実習前半グループの面談
- ⑥施設実習後半グループの面談
- ⑦保育実習Ⅱ・Ⅲの選択、実習先の選択、（礼状の作成）
- ⑧社会福祉施設の実習の振り返り（ICT 活用）
- ⑨社会福祉施設の実習の振り返り（2）（ICT 活用）
- ⑩保育実習 I A・I B 報告会における発表内容作成（ICT 活用）
- ⑪保育実習 I A・I B 報告会における発表内容作成（2）（ICT 活用）
- ⑫保育実習報告会（ICT 活用）
- ⑬保育実習報告会（ICT 活用）
- ⑭保育実習報告会后、2024 年度の実習の記録ファイルの作成（ICT 活用）
- ⑮保育実習報告会后、2024 年度の実習の記録ファイルの作成（ICT 活用）

『保育実習事前事後指導 I B（施設）』授業内容の解説

保育実習 I A で実習を経験後、保育実習 I B が実施される。学生はこれまで施設実習に関する学習を積み重ねているものの、施設の利用児者と触れ合う機会そのものが初めてという学生は多い。また、宿泊を伴う実習であったり障害児者と本格的に触れ合ったりすることに対して不安を感じる学生は、少なくはないと思われる。そのため、PC やスマートフォンを活用し、まずは実習施設について調べ情報収集に努めている。また、学習に際し必要となる入力システムの活用方法習得のため、ICT 活用をほぼ毎回実施している。先に I A で述べているように、日誌の振り返りなどで ICT の活用ができれば、不安要素が大きい施設実習において他の学生の実習状況などを確認することが可能となる。日中は、施設を利用している子どもが学校に行くため不在の時間帯も多く、その分、夜勤や早出があるなど、施設実習の形態はそもそも多様である。そのため、自分に取り組んでいる実習はこれでいいのだろうか、という漠然とした不安や戸惑いを感じる学生も少なくないと思われる。ICT がさらに活用できるならば、学生と教員、施設職員と共通認識を持ちながら連携を図り、確認ができる。これにより、円滑な実習を行うことができるのではないかと考えられる。

『保育実習 I B』（矢野川）

授業のねらい、概要

- ・社会福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
- ・利用児者との関りを通して利用児者への理解を深める。
- ・既習の教科の内容をふまえ、子どもの保育・養護及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
- ・保育・養護の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
- ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育・養護に取り組む力を養う。

授業内容

- ①施設長及び園長・職員・保育士の面接、担当クラスの利用児（者）との対面式、自己紹介
- ②施設での観察実習、日誌作成指導、保育協議
- ③施設での観察実習、日誌作成指導、保育協議
- ④保育士の補佐としての参加保育実習、日誌作成指導、保育協議
- ⑤保育士の補佐としての参加保育実習、日誌作成指導、保育協議、巡回担当教員による巡回指導
- ⑥施設での施設実習、日誌作成指導、保育協議
- ⑦施設での施設実習、日誌作成指導、保育協議
- ⑧施設での施設実習、日誌作成指導、保育協議
- ⑨施設での施設実習、日誌作成指導、保育協議
- ⑩利用児・者とのお別れ、反省会、挨拶

『保育実習 I B』授業内容の解説

保育実習 I B は、保育実習 I B 事前事後指導で実施した学習を活かし、実習現場において実践的な学びを経験する。現在は紙媒体での日誌の提出となるが、ICT活用によって実習計画や振り返り等の方法において選択肢が広がり、活用しやすくなると思われる。また、これらについて養成校の教員や実習施設の担当者等も確認の選択肢が増えるため、学生同様に活用しやすくなると予想される。

『保育実習事前事後指導 II（保育所・こども園）』（中原）

授業のねらい、概要

- ・これまでの実習を振り返り、保育実習の意義と目的

を理解し、保育について総合的に学ぶ。

- ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
- ・保育士の職業倫理（個人情報保護とICTの活用を含む）について理解する。
- ・ICTを活用することによって、他者と学び合い、他者との交流を通じ、自身の保育観を深め他者に伝えることの重要性について学習する。
- ・学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育・養護の力を身につける。

授業内容

- ①事前指導ガイダンス・保育実習の目的・実習の概要
- ②本実習のねらいについて
- ③これまでの実習の振り返り（ICT活用）
- ④実習計画の作成（ICT活用）
- ⑤子どもの発達理解と教材
- ⑥実習記録について（ICT活用）
- ⑦実習指導案作成（ICT活用）
- ⑧実習指導案作成と直前指導（ICT活用）
- ⑨実習に向けての心構えと最終確認（直前面談）
- ⑩実習事後指導①（保育実習Ⅱを振り返って）
- ⑪実習事後指導②（これまでの全ての実習を振り返って）
- ⑫実習報告会に向けて①（グループ発表準備）
- ⑬実習報告会に向けて②（全体発表準備）
- ⑭実習報告会①（グループ発表）
- ⑮実習報告会②（全体発表）

授業内容の解説

保育実習事前事後指導Ⅱにおいては、これまでの実習、学内での学習を踏まえた総まとめの実習としての位置づけを行う。

全ての実習について実習日誌を振り返るところから初め、自身の弱点（書き方や用語の使い方、こどもに対する見取り等）を再発見する機会とする。その際、ICTを活用して、他者の記述した日誌を閲覧、共用することができるようにすることでより記録の方法や用語の使い方などを深めることができるように工夫する。

また、指導案の作成についてもこれまでの授業内、実習を問わず作成してきた指導案を振り返り、また日

誌同様に他の学生と共有することで多様な考え方に触れ、気づきを深めることができるように工夫する。

ICTを活用することで、これまで学生たちが自身で作成してきた日誌及び指導案について、学生間で共有することで、結果的に自身の学習環境を改善していくことにもつながると考えられる。これまで保育士養成教育においてICTを活用する事例には「Learning Management System」（以降LMSとして表記する）の機能を持ったシステムを活用しながら、自身達の教材を充実させていく取り組みも行われている。

本学においては4年次に実施する実習でもあるので、後輩達に自身の学びをつないでいくという意識も持ちながら、学生自身がLMSの充実に取り組む内容を入れていきたいと考える。

これまで保育士養成教育において、ICTの活用を考えた場合、またLMSを使用する事例であれば、手遊びを録画して学内のシステムにアップロードしたり、ピアノの練習状況をアップロードしたり、動画を中心とした内容が多かったように思われる。ここに、実習日誌や指導案のICT化を関連させると、これまで自身が作成してきた日誌、指導案にその教材に関するハイパーリンクや学内に蓄積された動画にリンクを張るなど、日誌や指導案をハブとした、自身の「学びの設計図」を作成する事ができるようになることを目的とする。

保育実習Ⅱ（保育所・こども園）（中原）

授業のねらい・概要

- ・保育所・こども園の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
- ・子どもの観察や関わりの視点を明確にし、保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。また、ICTを活用し、日誌作成や指導案作成を行う。
- ・保育士の業務内容（現場におけるICT活用を含む）や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。

授業内容

- ①実習先における物的環境、職員組織、実習日程、クラス等の理解
- ②担当クラスにおける、観察実習及び日誌の作成
- ③観察実習及び日誌の作成、担当クラスの子どもの姿を捉える

- ④参加実習、部分及び全日指導案の検討
- ⑤参加実習、指導案の協議教材準備
- ⑥参加実習、実習先におけるICT活用の理解
- ⑦参加実習、実習先における子育て支援の理解
- ⑧実習先での部分保育実習、振り返りと保育協議
- ⑨実習先での全日保育実習、振り返りと保育協議
- ⑩実習先における反省会、まとめ

授業内容の解説

保育実習Ⅱにおいては、これまでの実習の振り返りを元に、自身のキャリアを踏まえた経験ができるようにすることを目的としている。ICT化についても、保育実習ⅠA、ⅠBにおいて活用した日誌や指導案の作成を踏まえてより効率的に作成できることを目指す。ここでいう効率的とは内容面についてはより充実を図りながら、ICT活用の技術をさらに深化させるということである。

また、現場におけるICT化の進歩に対応できるように現場におけるICT活用の実際についても見学をさせて頂き、実習終了後の自身のICT活用技術の充実に資することができるよう事後指導を行うこととする。

『保育実習事前事後指導Ⅲ（施設）』（矢野川）

授業のねらい、概要

- ・保育実習の意義と目的を理解し、施設での保育士の役割について総合的に学ぶ。
- ・実習や既習の教科の内容やその関連性をふまえ、保育実践力を培う。
- ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
- ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。
- ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
- ・学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育・養護の力を身につける。

授業内容

- ①オリエンテーション、保育実習の体系、実習日程と実習先の確認、実習先調べ、必要書類（抗体価検査など）の説明
- ②保育実習の体系、実習日程と実習先の確認、実習先

- 調べ、必要書類（抗体価検査など）の説明（２）
- ③実習施設の概要、サービス内容、利用児・者について等（ICT活用）
 - ④実習施設の概要、サービス内容、利用児・者について等（ICT活用）
 - ⑤施設実習計画作成、事前オリエンテーションに向けて書類準備（ICT活用）
 - ⑥実習の記録と日誌、記録の方法
 - ⑦施設実習前半グループの面談
 - ⑧施設実習後半グループの面談
 - ⑨お礼状の作成、実習の振り返り
 - ⑩お礼状の作成、実習の振り返り（２）
 - ⑪施設実習報告書など書類作成
 - ⑫施設実習報告書など書類作成（２）
 - ⑬保育実習Ⅱ・Ⅲ報告会に向けた発表内容作成
 - ⑭保育実習Ⅲ報告会、発表内容作成
 - ⑮保育実習Ⅱ・Ⅲ報告会

『保育実習事前事後指導Ⅲ（施設）』授業内容の解説

前年度の保育実習ⅠA及びⅠBを経験後、保育実習Ⅲ（施設）を選択した学生が保育実習事前事後指導Ⅲ（施設）に臨む。就職活動も視野に入れて事前事後指導に臨む学生もいるため、各施設の果たす役割や支援の目的についてより正確に理解把握するため、PCやスマートフォンを活用し、情報収集に努めている。また、学習に際し必要となる入力システムの活用方法習得のため、ICT活用をほぼ毎回実施している。前年度の日誌の振り返りなどでICTの活用ができれば、実習に至るまでの準備をより円滑に進めることが見込まれる他、後の就職活動をも視野に入れた情報活用もできるのではと思われる。

『保育実習Ⅲ（施設）』（矢野川）

授業のねらい、概要

- ・社会福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。
- ・家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に関する理解をもとに、本人支援や保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。
- ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
- ・保育士としての自己の課題を明確化する。
- ・学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可

能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育・養護に取り組む「人間力」の涵養に務める。

授業内容

- ①施設長及び園長・職員・保育士の面接、担当クラスの利用児（者）との対面式、自己紹介
- ②施設での観察実習、日誌作成指導、保育協議
- ③施設での観察実習、日誌作成指導、保育協議
- ④保育士の補佐としての参加保育実習、日誌作成指導、保育協議
- ⑤保育士の補佐としての参加保育実習、日誌作成指導、保育協議、巡回担当教員による巡回指導
- ⑥施設での施設実習、日誌作成指導、保育協議
- ⑦施設での施設実習、日誌作成指導、保育協議
- ⑧施設での施設実習、日誌作成指導、保育協議
- ⑨施設での施設実習、日誌作成指導、保育協議
- ⑩利用児・者とのお別れ、反省会、挨拶

『保育実習Ⅲ』授業内容の解説

保育実習Ⅲは、前年度の実習及び保育実習Ⅲ事前事後指導で実施した学習を活かし、実習現場においてより実践的な学びを経験する。現在は紙媒体での日誌の提出となるが、ICT活用によって実習計画や振り返り等の方法において選択肢が広がると共により実践的な学びに繋がり、活用しやすくなると思われる。また、これらについて教員や実習施設の担当者等も確認の選択肢が増えるため、学生同様に活用しやすくなると思われる。

V. 今後の課題と展望

今後の課題としては、先に述べたように、ICTを活用するには、学生、養成校の教員、実習先の三者が、一斉に導入と活用を始めるのが難しい点である。保育実習は毎年20か所以上の実習先があり、学生の居住地や希望により流動的に変更する。その為、ICT導入、活用に関して実習先に大きな差があるので、実習先に応じて段階的に導入が見込まれる。

一方、展望としては、ICTを活用することで、肝要なことはこれまで手書きで行われてきた記録や指導案に関するデータがデジタルデータとして蓄積できることである。誤字や用語の間違いについても、経験的に多いという事のみを学生に提示するのではなく、テキストマイニングを活用し、数量的に日誌や指導案を分

析することでその傾向を把握し、指導に活用することができるようになる。それは、実習先とそのデータを共有することで実習現場における学生指導や入職して間もない初任者の研修や指導に活用させることも可能となる。

将来的にはこのような量的データを養成校間、実習現場同士で共有することで、記録やこどもの見取り方の傾向を分析していくことができるようになると考えられる。そうすることで、養成校における教育時点から現場における初任者への指導と接続することにもなるだろう。

【引用・参考文献】

- 1) 西川ひろ子、岡本晴美、合原晶子、光本弥生、高橋実、中原大介 (2022) 「2020年新型コロナウイルス感染症予防のために実施された広島県内保育士養成校のオンライン授業による保育実習指導の効果と課題」『児童教育研究』No. 31 pp.39-47
- 2) 尾崎司 (2021) 「ICT化されたルーブリック評価法を活用した保育実習プログラムの開発—評価過程と省察におけるエピソード紐付け法による改善を目指して」横浜国立大学大学院 環境情報楽譜博士学位論文要旨 pp.47 - 51
- 3) 伊藤夏帆 (2024) 「保育学生の ICT 経験と情報教育に関する調査—ICT 不安の観点から」『京都女子大学就職支援センター研究紀要』(第6号) pp.191—200
- 4) 影浦紀子・山口真美・三好冬馬・吉野亜祐美 (2024) 「ICTを活用した子ども理解を深めるための記録のあり方—保育・幼児教育現場における実習記録の様式と指導の課題—」『松山東雲女子大学人文科学部紀要』33 pp.27 - 39
- 5) 小澤由理 (2022) 「保育者養成における実習日誌の指導に関する研究—実習園への聞き取り調査から」『敬心・研究ジャーナル』6巻2号 pp. 23-31
- 6) 池本有里、山本耕司 (2018) 「保育業務の ICT 化における課題とその解決を目指す支援システムの構築」『四国大学紀要』A 50 pp.49-61
- 7) こども家庭庁 (2024) 「保育関係予算概算要求の概要」2024年8月22日閲覧
https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/214cacce-0305-4ce9-a120-355df90cf035/714736d3/20230901_policies_hoiku_yosan_06.pdf
- 8) 橋浦孝明・前正七生 (2017) 「主体性と思考を育む震災後の保育士養成への試み—養成課程における科目編成ルーブリックの可能性—」『いわき短期大学研究紀要』Vol.50 pp.25-44
- 9) 前田 有秀 (2017) 「保育専攻生における保育実習経験効果に関する研究—保育者有孔管変化に影響を与える事前要因の検討—」『尚絅学院大学紀要』73号 pp.15-27
- 10) 金元あゆみ (2018) 「学生の専門的成長を支える保育実習指導のあり方」『子ども教育研究』臨時増刊号 pp.21-39
- 11) 同上

Considerations Regarding Guidance in Childcare Practicum to Cultivate
Student Trainees' Independent Learning:
Incorporating the Active Use of Information
and Communication Technology

Takeharu SAEKI, Daisuke NAKAHARA, Yoshinori YANOGAWA

Department of Childhood Education, Faculty of Welfare and Health Science,
Fukuyama Heisei University

E-mail : sae-take@heisei-u.ac.jp

Abstract

Based on findings from prior research, this study proposes teaching contents for childcare practicum courses wherein the training enables students to learn independently by actively using information and communication technology (ICT).

Studies demonstrate that ICT use in practicum guidance and practical training can reduce the burden on students and teachers performing practical training.

Addressing this gap, this study provides considerations for an appropriate syllabus that enables students to enjoy the proven benefits of using ICT before and after childcare practicum classes and promotes ICT usage in the practical training provided by each teacher. The results showed that: ICT use enables student information to be shared with the training site and personnel prior to the actual training, promotes student understanding at training sites, and makes it easier to establish teaching plans and orientations for training. Moreover, in cases involving certain challenging aspects ICT enables confirmation of the practicum status of all students, and smoother training due to the sharing of information and understanding among students, teachers, training facility employees, among other benefits. ICT further enables records, guidance plans, etc., to be shared with and among students, who are thus introduced to diverse ideas. This also helps them to become more aware of important points and increase their related understanding. Another benefit is that ICT usage makes it easier for more senior students to share data, opinions, and information concerning the practicum with junior students.

Future research topics include considerations regarding the systematic ICT introduction for students, teaching staff at teaching and training schools, and especially those students entering and during the practicum stage. Methods are also needed to make data storage easier, including records and teaching plans that involve ICT usage. This will require investigations on the best methods for storing data, recovering and processing the data, displaying data, etc.; all these efforts will make it easier to use this data in future practical training.

Keywords:

childcare training, Utilization of in childcare training ICT , Independence of childcare training